

<第108回調査>

2018年5月28日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2018年5月15日(火)13:00～2018年5月22日(火)13:00
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。
今回の有効回答数は730件。
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

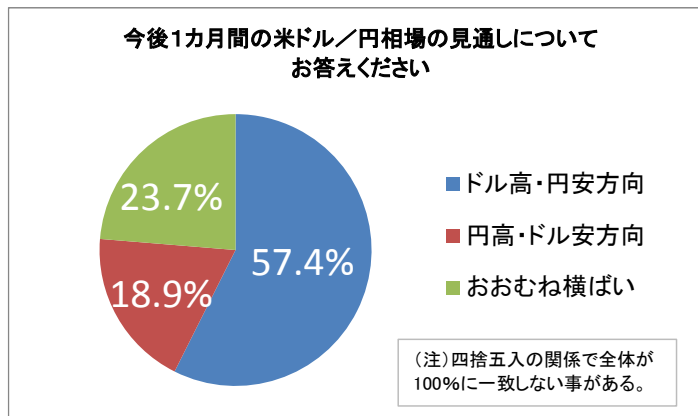
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第108回調査結果略報：米ドル/円DIが1年5カ月ぶり高水準に】

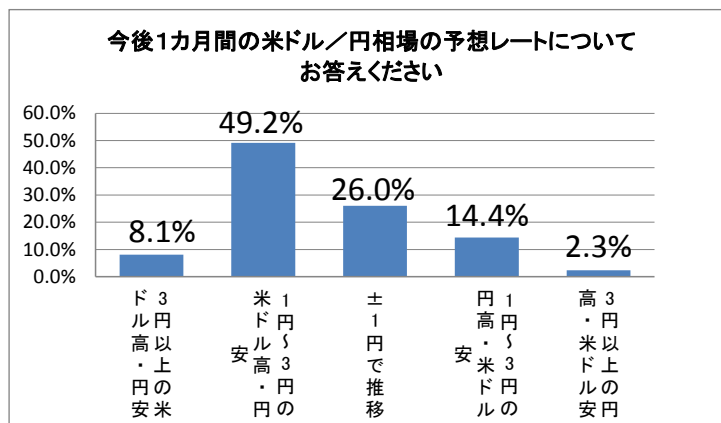
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が57.4%であったのに対し「円高・ドル安方向」と答えた割合は18.9%であった。この結果「米ドル/円予想DI」は△38.5%ポイントと、3カ月連続で上昇して2016年12月以来1年5カ月ぶりの高水準を記録した。調査期間中の米ドル/円相場は、米長期金利の上昇を受けて110円の節目を突破し、111.30円台まで上値を伸ばした。日経平均株価が一時23000円台を回復しNYダウ平均も25000ドル台を回復するなど世界的に緊張が緩み、投資家のリスク許容度が上昇する中、個人投資家の間でも高金利通貨の米ドルに対する強気度合いが増したと見られる。※過去の米ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が49.2%と最も多く、「±1円で推移(26.0%)」、「1円～3円の円高・米ドル安(14.4%)」と続き、以下「3円以上の米ドル高・円安(8.1%)」と続き、「3円以上の円高・米ドル安」は2.3%にとどまった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側の左サイドに大きく傾いており、米ドル強気・円弱気の予想が示された問1の結果と整合的だ。なお、調査期間中の米ドル/円相場から推測すると、個人投資家が想定する今後1カ月のコアレンジは109.50-113.50円前後という事になる。

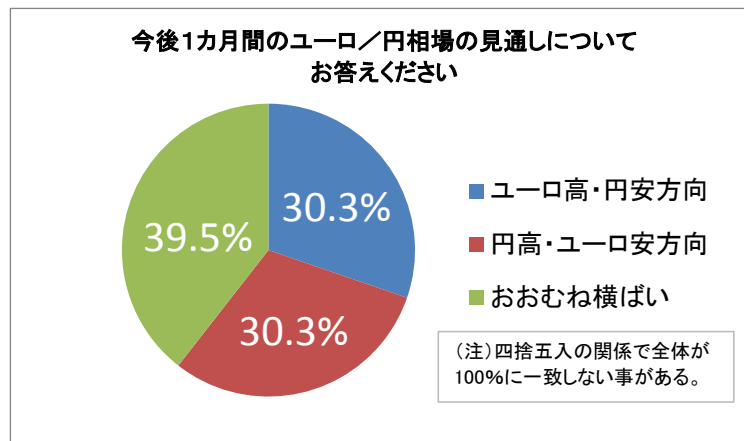


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

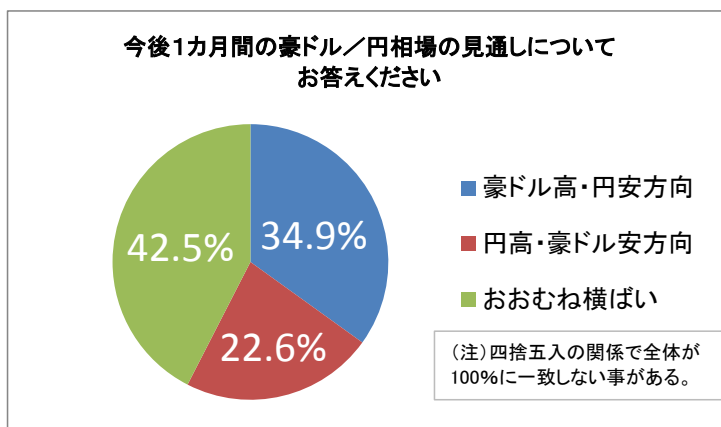
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が30.3%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合も30.3%であった。この結果、「ユーロ/円予想DI」は±0.0%ポイントと、完全中立を示した。調査期間中のユーロ/円相場は、欧州中銀(ECB)の政策正常化後ずれ観測やイタリアの政局不透明感などで129円台半ばまで下落したが、その後は131円台前半へ反発するなど方向感が定まらなかった。そうした中、個人投資家の相場見通しも相場展開と同様に定まりにくかったようだ。

※過去のユーロ円予想DIの推移はP7-8に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が34.9%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は22.6%であった。この結果「豪ドル/円予想DI」は△12.3%ポイントとなり、前回(△13.7%ポイント)から僅かに低下したが3カ月連続で強気見通しを示すプラス圏を維持した。調査期間中の豪ドル/円相場は、82円台前半から84円台半ばまで反発したが、その割に個人投資家の見通しは強化しなかった。米ドル高のあおりで新興国の一部に通貨不安が台頭しているだけに、リスクセンチメントに左右されやすい豪ドルへの信頼感が高まりにくいようだ。※過去の豪ドル円予想DIの推移はP7-8に掲載。



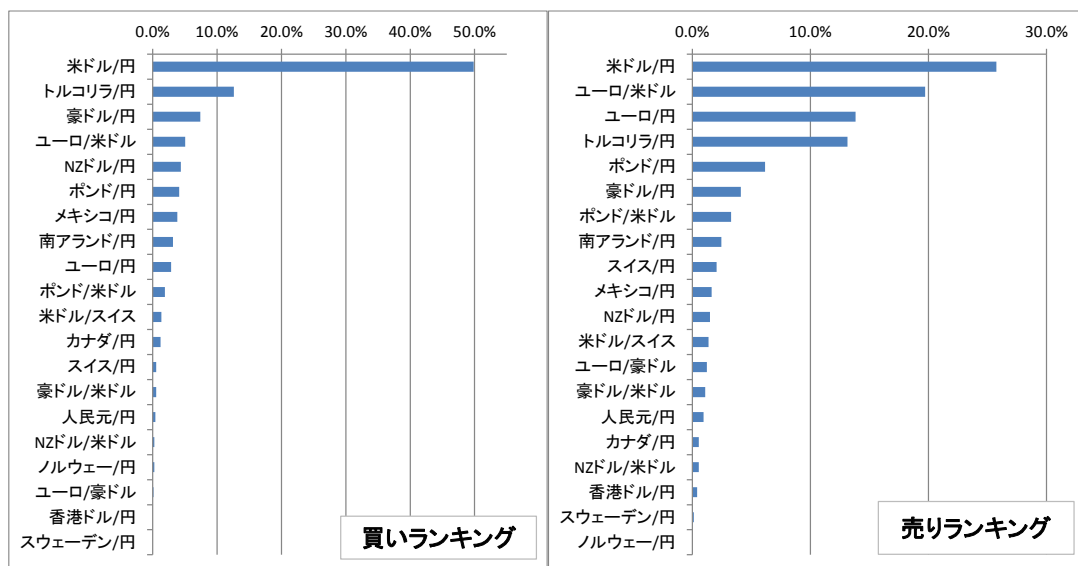
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が49.9%の回答割合を集めて1位となり、68カ月連続で首位をキープ。以下、トルコリラ/円(12.6%)、豪ドル/円(7.4%)、ユーロ/米ドル(5.1%)、NZドル/円(4.4%)の順に続いた。米ドル/円については安定の1位独走が続いているが、2位のトルコリラ/円も前回(12.1%)から小幅とはいえ回答割合を伸ばしている。エルドアン大統領による金融政策への介入観測などから史上最高値の更新が続いているが、そうした中であっても個人投資家の押し目買いの姿勢に衰えは見られないようだ。

一方、「売り」で注目の通貨ペアは、米ドル/円が25.8%の回答割合で19カ月連続でトップを維持。以下、2位がユーロ/米ドル(19.7%)、3位はユーロ/円(13.8%)、4位トルコリラ/円(13.2%)、5位ポンド/円(6.2%)の順に続いた。ここでもトルコリラ/円が前回(10.3%)から回答割合を増やしている。世界の為替取引ではわずか0.7%のシェアしかないマイナーカレンシーのトルコリラに、日本の個人投資家の視線が集まっている様子が見て取れる。

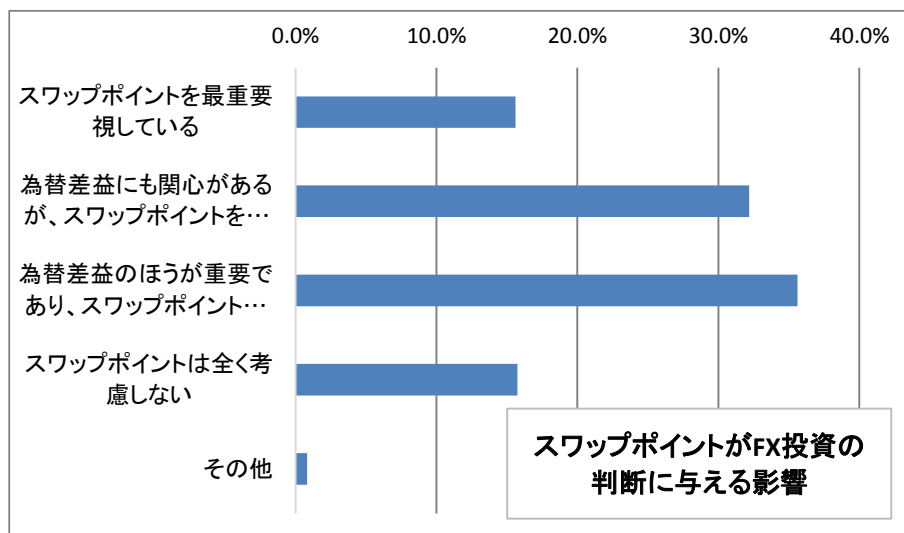


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問6:スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは？

今回の特別質問として、「スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは(ひとつだけ)?」と尋ねたところ、「為替差益のほうが重要であり、スワップポイントは気にしない」が35.6%と最も多く、僅差で「為替差益にも関心があるが、スワップポイントを重要視(32.2%)」が続き、以下「スワップポイントは全く考慮しない(15.8%)」、「スワップポイントを最重要視している(15.6%)」と続いた。なお、2年前の第84回調査で同じ質問をした際も、スワップポイントは気にしない派が最も多く(37.3%)、以下の順位も同じであった。ただ、「為替差益にも関心があるが、スワップポイントを重要視」とした割合は、2年前の調査(24.9%)から7.3ポイント上昇したほか、「スワップポイントは全く考慮しない」の割合は前回(21.3%)から5.5ポイント低下した。スワップポイント(の多寡)がFX投資の判断に影響する度合いは2年前よりも上昇していると考えられる。なお、今回の回答の理由について自由記述式で尋ねたところ、「為替差益のほうが重要であり、スワップポイントは気にしない」とした向きからは2年前と同じく「デイトレなので気にしない」との回答が多かった。一方、「為替差益にも関心があるが、スワップポイントを重要視」とした向きからは「米国の利上げでスワップポイントを無視できなくなった」との声が挙がっていた。

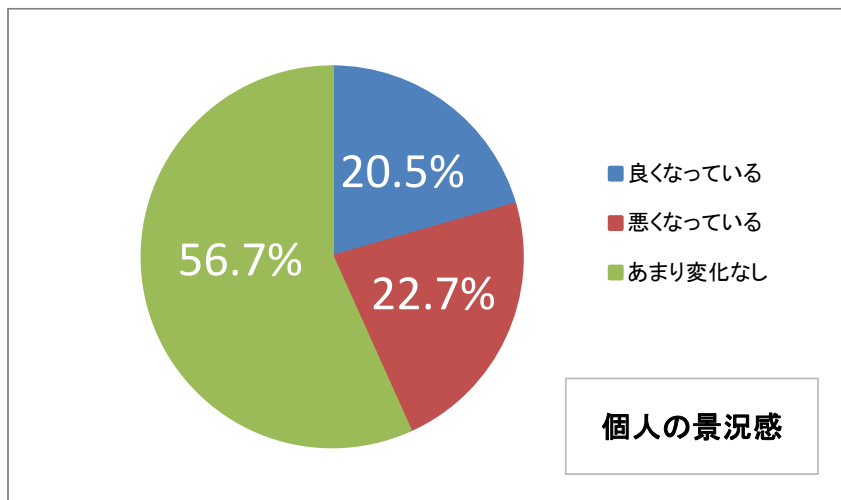


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問7:あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

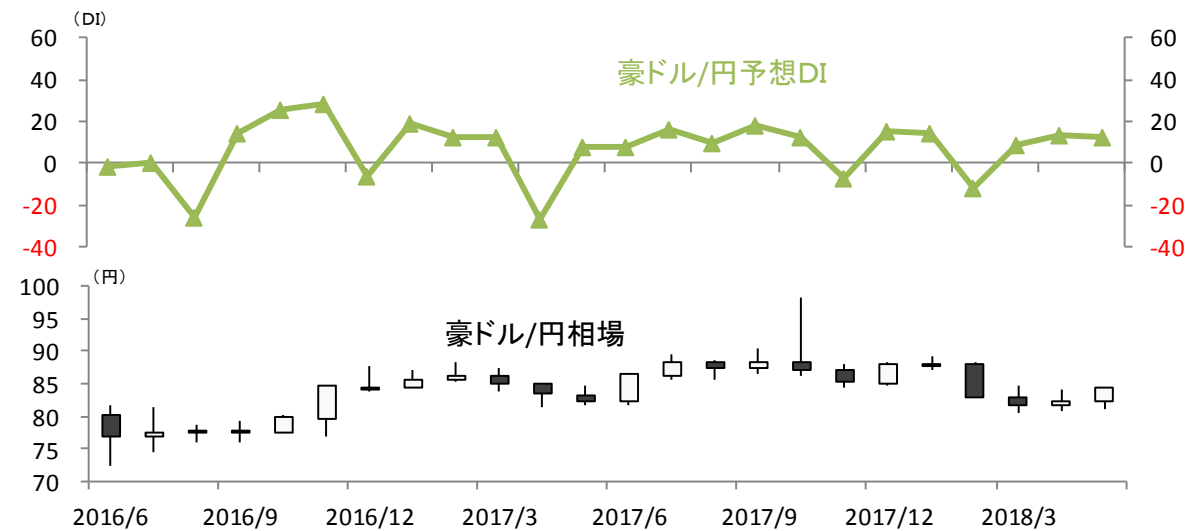
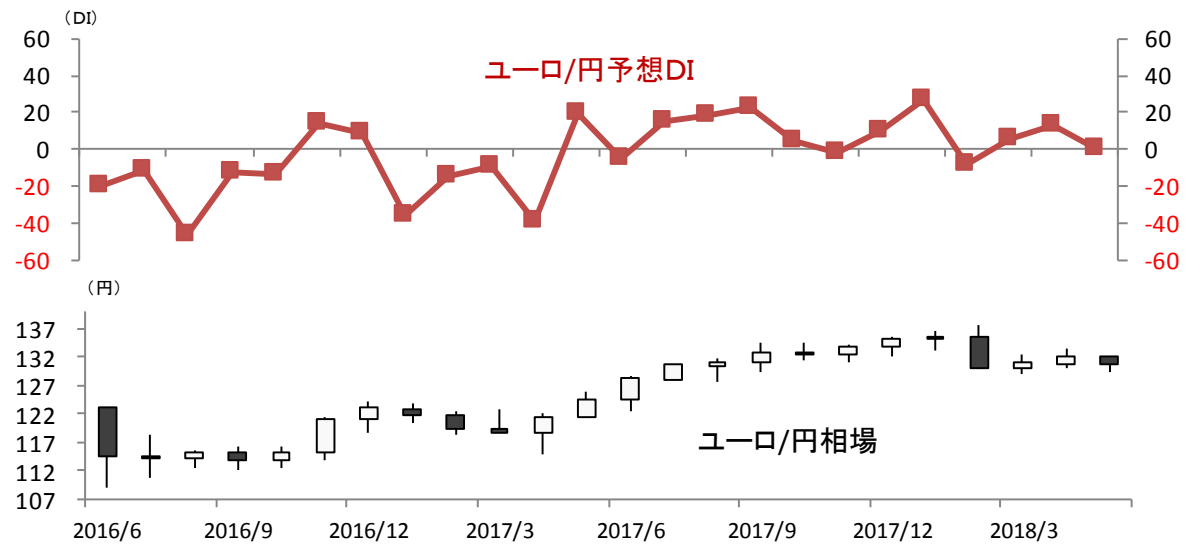
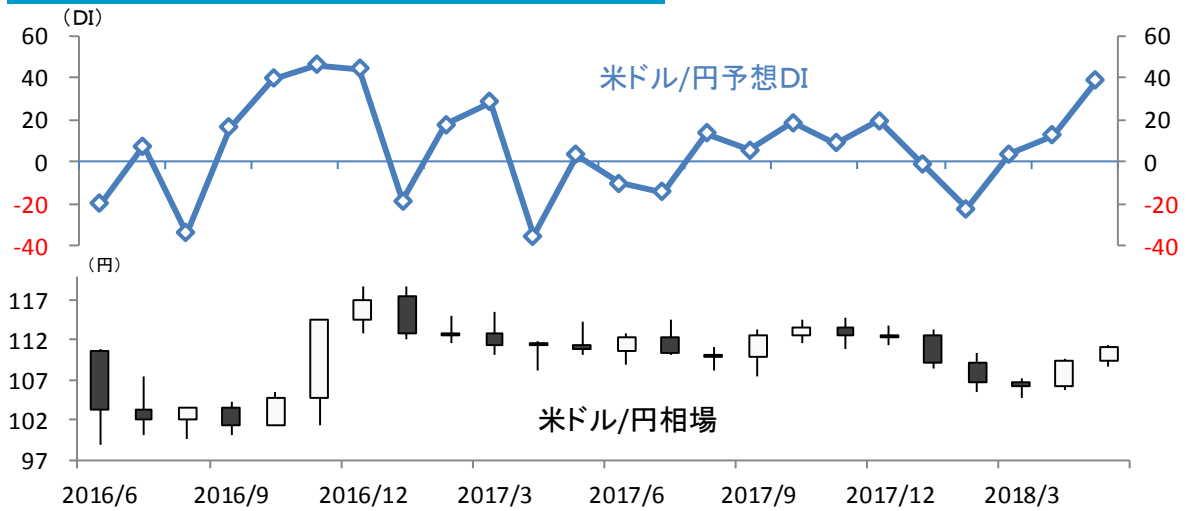
今回のもうひとつの特別質問として、「あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「良くなっている」が20.5%、「悪くなっている」が22.7%、「あまり変化なし」が56.7%という結果になり、「あまり変化なし」が過半数を占めた。なお、3カ月前の2月調査でも「良くなっている(18.6%)」、「悪くなっている(24.6%)」、「あまり変化なし(56.8%)」と、ほぼ同様の結果であった。このところの個人投資家の景況感は、改善することも悪化することもなく平穏な状況が続いており、投資行動に影響が出るような変化は見られない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご承願いたします。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第108回目となりました。調査開始から8年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2016年	6月	26.3	60.2	-33.9	20.0	67.0	-47.0	24.8	50.5	-25.7
	7月	48.3	32.1	16.2	32.1	44.7	-12.6	44.2	29.8	14.4
	8月	26.5	48.9	-22.4	17.2	48.1	-30.9	25.9	40.2	-14.3
	9月	34.5	36.8	-2.3	23.8	38.0	-14.2	28.4	35.4	-7.0
	10月	57.3	17.6	39.7	24.2	37.7	-13.5	43.3	23.0	20.3
	11月	65.9	19.9	46.0	38.7	24.8	13.9	47.0	21.2	25.8
	12月	64.4	20.2	44.2	36.6	28.3	8.3	50.0	21.6	28.4
2017年	1月	35.2	54.0	-18.8	18.3	54.1	-35.8	28.9	35.5	-6.6
	2月	46.2	28.7	17.5	23.8	38.1	-14.3	41.9	23.1	18.8
	3月	53.3	24.7	28.6	27.6	37.4	-9.8	36.1	23.1	13.0
	4月	21.6	51.7	-35.5	17.7	56.6	-38.9	19.6	46.4	-26.8
	5月	38.4	35.3	3.1	45.9	26.5	19.4	34.9	27.0	7.9
	6月	33.3	43.4	-10.1	31.5	37.1	-5.6	33.7	25.7	8.0
	7月	30.7	45.2	-14.5	42.4	27.6	14.8	42.8	26.9	15.9
	8月	45.5	32.0	13.5	43.8	25.3	18.5	37.3	27.9	9.4
	9月	40.8	35.0	5.8	44.4	22.0	22.4	40.9	22.7	18.2
	10月	48.2	29.4	18.8	35.5	31.5	4.0	37.9	25.6	12.3
	11月	40.0	31.1	8.9	29.0	31.4	-2.4	26.9	33.8	-6.9
	12月	45.5	26.1	19.4	35.0	25.0	10.0	38.0	22.6	15.4
2018年	1月	38.0	39.2	-1.2	48.2	21.3	26.9	37.3	22.6	14.7
	2月	29.1	51.4	-22.3	30.1	38.9	-8.8	28.4	39.9	-11.5
	3月	39.6	36.0	3.6	34.0	29.0	5.0	38.6	30.2	8.4
	4月	42.8	30.1	12.7	37.9	25.3	12.6	39.0	25.3	13.7
	5月	57.4	18.9	38.5	30.3	30.3	0.0	34.9	22.6	12.3

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2018 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com